

2005年4月29日～6月5日

## 寄贈品コーナー 「新資料展」

今月の寄贈品コーナーでは、各分野でこの一年間に受け入れた新着資料を展示します。

生物資料では、矢部ゆり子氏寄贈の甲虫類標本（オトシブミ類・カミキリムシ類を中心としたコレクション 240種 約800点）、紺龍彦氏寄贈のエゾライチョウ剥製標本を展示します。エゾライチョウは日本では北海道でしか見られないキジ科の野鳥です。

地質分野では、最近収集した丹沢の海底火山噴出物を示す岩石を、天文分野では寄贈を受けた環天頂アークの写真などを、歴史分野では戦前の教科書などを展示します。

民俗分野では、小鍋島から寄贈された「オマラサン」を展示します。ここでは、この「オマラサン」について、詳しく紹介しましょう。

小鍋島はカミ・ナカ・シモ・城東の四集落に分かれ、集落ごとに道祖神を祀っています。1月14日には道祖神の祭りとしてドンドンヤキをします。小鍋島のカミでは、セエトと呼ぶ円錐状の焚き物に点火するとき、昔からある決まった家の火を用います。この家は「道祖神の家」と呼ばれ、昔、他の家の火で点けたら後日災難が起きたことがあり、今でも「道祖神の家」のマツチを使って点火することになっています。

この「道祖神の家」に木製の「オマラサン」が保管されていました。かつて1月14日の朝、集落でこの一年間にお嫁さんやお婿さんを迎えた家へ、子供たちは「オマラサン」を携えてお祝いに訪れました。近年は1月14日近くで日柄の良い日曜日に実施していました。「オマラサン」を半紙でくるんで水引をかけ、木のお盆にのせて道祖神へあげ、御神酒を供えます。それから子供たちは新婚家庭を訪れ、「オマラサンが参りました。子宝に恵まれますように」などと唱え、お嫁さんは、そっと「オマラサン」をさすります。「オマラサン」を

拝むと子宝に恵まれるのだそうです。子供たちが御神酒を置くと、家からご祝儀が渡されました。

平塚市で木製の「オマラサン」の例は他に確認していませんが、同じ小鍋島のシモでは、ダイコンを男根状に削って新婚家庭のお祝いに回ったそうです。須賀の西町では、昭和初期の頃まで、ダイコンとニンジンで男女のシンボルを作り、ダイコンの先端に油と鍋墨を練り合わせて塗り、嫁さんの顔や腹に押しつけたといいます。寺田縄でも同様にシンボルを持ち出し、ワラの先端にコブをつけた物でお嫁さんのお尻を叩いてきたそうです。

道祖神祭りのときに、男女のシンボルを携えて新婚家庭のお祝いに回る風習は、県内でも平塚市周辺地域の特色で、とくに伊勢原市に多く見られました。ダイコン・ニンジン・カブなどの野菜を細工することが多く、縄文時代の石棒のような石を用いる所もありました。小正月は一年間の農作物の豊作を祈るとともに、子孫繁栄を祈願する日でもありました。かつて女性は家の跡継ぎを産むことを強く望まれ、子宝に恵まれることは切実な願いでした。生命の誕生は作物の豊穰につながると考え、神楽などでオカメとヒョットコが演じる性的な所作も、子孫繁栄と豊作祈願に基づいています。

小鍋島では近年の少子化で行事を維持するのが困難になり、「オマラサン」も痛んできたということから、博物館へ寄贈していただくことになりました。何十年、何百年前に作られた物か定かではありませんが、原形はよくとどめています。木製の男根は県内では類例が少なく貴重な資料といえます。伝統行事がまたひとつ姿を消してしまうのは惜しいことですが、博物館では地域の庶民信仰の証として大切に保管していきたいと思えます。（森・浜野）



オマラ（平塚市小鍋島）